

# Insight **みどりの7カヨミ**

話題になったあのコトこのコトをその後の情報とともに深く読み解きます。

## ブナの「花見」でクマ出没を予測する



文・写真 井田 秀行



写真1 クマが大好物のブナの実



写真2 ブナの**おぼな**雄花(上)と**めばな**雌花(下)  
花粉が風媒介のため花弁が  
なく地味



写真3 落ちてくる花や実を集める  
ためのトラップ



写真4 地面に落ちた**おぼな**雄花  
これだけ多いとクマ出没の  
危険性は低い

### ◇クマ出没注意喚起のタイミング

クマ（ツキノワグマ）との遭遇を未然に防ぐために長野県などでは、ブナの実（写真1）やドングリが凶作のときクマが人里に出やすいとして注意喚起がなされています。しかし、凶作が判明して注意が促された頃には既にクマが出没し始めている、というのが実状です。

### ◇ブナの花が少ない年

ブナの実が育つ前に、クマ出没注意報をできるだけ早く出すには「花見」が有効であることを確かめました。

このことを示すために用いたデータは、県北部・飯山市のブナ林で採取したブナの花（写真2）の数と、同市で有害捕獲（つまり殺処分）されたクマの数です。15年分のデータから両者の関係を調べたところ、花の少ない年ほど8月以降にクマの有害捕獲数が増える傾向にあることが分かりました。これは「春に花が少ないければ、秋に実る種子、すなわちクマが好物のブナの実も少なくなる（凶作になる）はずだから、クマが人里に降りてくる危険性が増しますよ」ということを示しています。

### ◇花の量を調べる

ブナの花の量を正確に調べるには双眼鏡や専用器具（写真3）が必要ですが、大まかに把握するだけならば「ブナの花見」が簡単です。春先（4、5月）にブナ林を散策し、地面にどれくらい雄花が落ちているか（写真4）を観察することで、夏以降のクマ出没をある程度予測することができます。つまり、雄花がほとんど見つからなければクマ出没の危険性は高く、逆に、大量の雄花を確認できればその危険性は低いと予測できます。

ただし、ブナの花は落下後1～2

週間もすれば土に混じって見えなくなってしまうため、観察時期が重要です。

このようにしてブナの花見でクマ出没を予測する方法は、日本海側の雪国のようにブナが多い地域ならば可能だと考えています。

### ◇クマが人里に迫っている

ところでそもそもなぜクマが人里に出てくるようになったのでしょうか。理由の一つに、ブナの実やドングリが凶作のときでも魅力的な食べ物（柿や栗をはじめ果樹など）が豊富にある人里が、クマにとってアクセスしやすい場所になったことが挙げられます。人里周りの木々が燃料に使われていた数十年前までは、クマは奥山を生活拠点とし人里は遠い存在でしたが、山が放置された現在は、木々が成長し奥山と同じような森が人里に迫ってきています。つまりクマにとって人里がまるでコンビニのようにとても身近な存在になってきているためです。

### ◇エピソード～ブナ研究中の直感

こぼれ話となりますが、15年分のブナの花のデータは、ブナの実が豊作と凶作を不定期に繰り返す理由を解明するために集めていたもので、「花見の効果」を示すことは本来の目的ではありませんでした。上記の研究成果は、現場に足を運びつづけてきた中で、ブナの花の量がどうもクマ出没と関係していそうだと直感したことがたまたま的中した、という感じです。

ブナの花見は私がくたばるまで続け、有害捕獲されるクマをできるだけ減らすとともに人も安心して生活していけるよう、研究成果を役立てていきたいと思っています。

（いだ ひでゆき／信州大学教育学部 森林生態学研究室 教授）

出典：IDA, Hideyuki (2021) A 15-year study on the relationship between beech (*Fagus crenata*) reproductive organ production and the numbers of nuisance Japanese black bears (*Ursus thibetanus japonicus*) killed in a snowy rural region in central Japan. *Landscape and Ecological Engineering* 17: 507-514. <https://doi.org/10.1007/s11355-021-00472-9>

